

当世お見合事情

三 浦 サ ト 子

私は10年程で教師をやめたあと、千葉に移り住んだので、地理の研究室や地理学にすっかり御無沙汰してしまいました。7年前東京に戻ってきた時、貝山さんの推薦で桜蔭会の役員になって厚生部に所属し毎週木曜桜蔭会に通っている。厚生部というのは、桜蔭会員の福利厚生を目的とした部で、就職相談や結婚相談を業としていて、私は結婚相談部の一員である。たまたま欠員になった所に補充されたので、人様のお世話が得意であったわけではない。それでももう7年にもなるので少しは様子もわかるようになった。又、桜蔭会以外に友人知人などから頼まれることもありお世話することもある。これらの体験から私の感じたままを書いてみるが、他のスタッフの意見は入っていないことをお断りしておく。

当会の相談部では「御自分で資料をみて、この方におめにかゝりたいとおっしゃる方に紹介の労をとる」のであって、こちらからこの方とすゝめるのではないから、申込んで相手も否と云えばお見合までいかない。自分の希望だけで申込むのだから、相手の条件と合わない場合が多いわけである。しかし「縁は異なもの」で、あわないのではと思っていた方々がめでたくゴールインなさったり、いゝ組合せと思った組が一度のお見合でダメだったりする。だから縁というものは、会ってみなければ始まらないから積極的に会うことをすゝめたい。自分の理想にあわないからと身上書だけできめないでほしいと思う。この頃「三高」とやらで女性の希望が高いことを云々するが、男性は昔から結構勝手なことを云っていたのだからお互い様と云える。たゞ、品物ではないのだから外見より人間性を問題にすべきではなからうか。この頃結婚が難しいのは、子供の数が少ない為に親の希望や条件が、本人の希望に加わるのも一因ではないかと考えるようになった。お嬢様をお持ちの方にはお分りと思うが、御子息しかお

持ちでない方に申し上げたいのは、最近の女性の考え方生き方が変わってきているということである。仕事を続ける、親と別居は当然、年令が近いこと（少し年の差があるとオジンは嫌という）。勿論結婚したら仕事をやめる。年が離れていた方がいゝという方もいることは強調しておくけれど。一方男性は若い方がいい、美人がいゝ、可愛いゝのがいゝとはっきりおっしゃる。年令に関しては男女の考えに大きい違いがある。その他、兄弟がある方東京勤務の方等結構注文がある。こんな訳で仲々お見合までいかないし、お見合までこぎつけても成立しないのが多い。何度も申込み、お見合をしているうちに様子が分って、お家の方で適当な話があると決めてしまう方が多い。桜蔭会相談部は勉強の場なのだとこの頃は達観している。どこできまっても本当におめでたいことですから。

事務的なことだが御参考までに申し上げますと、まず写真のことだが、西日本では和服の写真が必要といわれるが、最近の東京では洋服姿のスナップが自然の姿がわかるからよいとされる。素人写真の小さくて顔も分からないのと友人と一しょの写真など論外で、出来ればプロの写真家に戸外で撮って貰ったスナップが一番よい。写真が第一印象だから大切なのである（男女に不拘）。

次に身上書（釣り書）だが市販の履歴書用の半面の用紙に書く方があるが、これはやめてほしい。便箋に本人の身上書（住所、本籍、学歴、職歴、趣味、身長等）と、二枚目に家族書として両親兄弟の年令、学歴職業を書くのがいゝと思う。西日本では主な親戚を必ず書くが、東京ではあまり書かない。このように地方によって習慣が違うので臨機応変にする必要がある。

最後に「理想と現実の違い」という言葉を若い方々に贈ってペンをおきます。

（1回生）